廃プラ・容リ・古紙・事業系

挟まれ・巻込まれの防止を

会員対象のアンケート結果報告

日本RPF工業会

（一社）日本RPF工業会（三輪陽通会長）が10月17日に東京都内で開いた第7回安全大会で、「挟まれ・巻込まれ災害に関する会員のアンケート調査結果」が報告された。同工業会安全衛生委員会の中田英男副委員長は、「労災は『想定外』で起きると言われている。災害が発生していない職場ではあっても潜在的な危険性や有害は存在していないか見つけ出し事前に的確な対策を講じるリスクアセスメントは『想定外をなくす』ために有効」「職場全員が同じレベルで安全に対する意識が統一されれば労災リスクは下がる。そのために教育に時間をかけること（火災訓練同様）は有効」などとまとめた。

アンケート結果については、RPF製造に関わる受入・破砕施設や搬送施設・定量供給・成形機で労働災害に至った事例として、挟まれ・巻込まれによる「骨折」「裂傷」「切断」などが実際に起きていることなどが紹介された。「投入者がコンベア上で原料滞留を発見し、コンベアを逆回転させながら原料掻き出し作業したところ、コンベア上の凹凸により転倒、原料逆流防止鉄板箇所に足が引き込まれた→右かかと複雑骨折」や「破砕機内部のプッシャーごみ除去作業で、プッシャーを稼働させながらプッシャー後退した際に挟まれ（巻込まれ）→指先切断」、「成形機のメンテナンス（ブレード交換）で、人力で取付作業をしていたところ、ブレードが重く支えきれず、指部分に落下→指裂傷」などの重大事例が起きた。

また、「ヒヤリハット」の事例とその対策としては、「重機使用のため位置変更したところ、旋回時にアームと人が接触しそうになる」という状態になり、その対策として「重機再始動の際はクラクションを2回鳴らし、指差し確認も行う。重機の近くを通る際は無線でお互い認識する」ことなどが紹介された。

RPF製造に関わる全体をみると、「『異物除去』等の緊急的な事案はリスクが高まる」「『メンテナンス』は想定外（重機・他者稼働）のリスク」「『清掃』は回転体との接触リスク」などが指摘された。